

東京湾のアサリの産卵期

東京湾では4月から5月にかけて、アサリが産卵期を迎えます。そこで、先日、羽田沖浅場と三枚洲において採集したアサリの生殖腺の状態を調べてみました。

殻長、殻高、殻幅を測定した後、グラインダーでアサリの殻頂部付近を削って穴をあけてから閉殻筋をメスで切って殻を開けると、軟体部の中央に白っぽい生殖腺が認められます。この生殖腺の状態を、大きさ、張り具合、白色の濃さで、A：成熟期、B：産卵・放精中、C：産卵・放精後の3つの段階に区別してみました。

その結果は、5月19日に採集した羽田沖浅場のアサリでは、Aが11個体、Bが1個体、5月25日に採集した三枚洲のアサリではAが6個体、Bが8個体でした。

調査したアサリの殻長は羽田沖浅場では22.2mm～34.9mm、三枚洲では23.5mm～34.6mmで、30mmを超えるアサリは満2歳で昨年当協会が放流した放流アサリの可能性があります。30mm以下の個体は、東京湾で生まれた満1歳の地アサリだと思われます。

今回の調査によって、東京湾奥の浅場で放流アサリとともに東京湾で生まれた地アサリによってもアサリの産卵が行われていることが確認できました。近年、アサリ資源は全国的に低迷しており、東京湾でも同様ですが、放流アサリと地アサリの両者によって産卵が拡大し、東京湾のアサリ資源が回復することが期待されます。



令和8年5月19日 採集場所：羽田沖浅場



令和8年5月25日 採集場所：三枚洲